

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0781
施設名	鹿骨おひさま保育園
施設所在地	東京都江戸川区鹿骨2-23-1
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ> 【5歳児らいおん組】

木

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然豊かな環境にある登園は日々、散歩や戸外遊びで自然に触れている為「木」はとても身近な存在。その木に興味を深め木で出来ている物・玩具に発展していく中で、子ども達が主体的に遊びを進めていけると考えた。木について興味を深め、遊びを発展させたい。

## 2. 活動スケジュール

4月 戸外で自然に触れ「木」に関心を持つ。木で出来ている身近な物や玩具に気付く。  
10月 木の実・落ち葉・木登り等木に触れる。カプラ導入・熟年者交流会で体験する。  
12月 子ども達へヒントや共有する楽しさを伝えられる様、カプラ園内研修を実施する。  
木製玩具の導入/手触り・音・硬さ・色等の違いに気付く。  
カプラと組み合わせてイメージを広げる。(積木・人形・動物・カタカタ等)  
1月 戸外活動で改めて「木」を身近に感じ、気付きを大切にする。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・散歩では自然に興味を持ち、木の実や葉を持ち帰れるよう入れ物を用意。
- ・手触り、香り、音等楽しめるよう各部屋にカプラを配置(増量)。
- ・カプラを広げるスペースの確保(FS/ホール)。完成見本写真を用意。
- ・保護者周知の為プロジェクト、スクリーンを準備。HPやお知らせで周知。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

園周辺には公園や緑道など自然が多く、散歩の中で自然と木に触れる機会が多く持てた。木で出来ているカプラを中心に段階的に取り入れていった。立体に積んである写真等準備し、真似て上手に積み上げられる様にした。

カプラで遊ぶのが飽きてきた頃、時期をおいて、一緒に遊べる木のおもちゃ（色や形で見立てられるもの）を追加した。それによって高く積むだけだった遊びから平面でも遊べるものになった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

一度遊び方が分かると積む、ずらす、重ねると色々な立体も見られ、色が付いた見立てられる物は、青なら「池だね」と丸く集めて置いて、周りには町が広がり赤は「火」緑は「森（木）」とイメージを膨らませていることが分かった。一緒に保育士も遊ぶ中でイメージを共有し、友達と関わりながら遊べるようにしていった。活動内容は保護者会でプロジェクターを使って動画で報告することで、家庭でも遊びを共有でき活動も意欲的になった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

長期に掛けて取り組むことにより、大きい作品になると「取っておいていい？」という声が聞こえてくるようになった。子どもの気持ちを汲み、継続できる場所を確保していった。少しずつ遊び方が変化したし、遊びの継続・次への期待「こうしたい」という気持ちを言うようになったと感じた。友達と「ここはこうしよう。」「町の隣は何にする」と協力したり、意見を言い合い、時間を掛けて作ったものを大切にする気持ちも育ったように思う。